

国内たばこ市場のマーケットリーダーである日本たばこ産業（JT）は、国内市場に軸を置く企業からグローバル企業への転換を図り、今日世界130以上の国と地域で当社のたばこブランドを販売すると同時に、医薬、加工食品といった幅広い事業も展開している。国内たばこ事業は、市場規模の減少傾向や喫煙規制の進展など厳しい事業環境が続いているが、JTは、たばこを吸われる方と吸われない方の共存社会の実現に向け、さまざまな活動に力を入れている。その取り組みについて、東関東支社水戸支店の太田隆樹支店長に聞いた。
（聞き手は沼田安広茨城新聞社長）

吸われる方と吸われない方が共存できる社会の実現へ



日本たばこ産業株式会社
太田隆樹 東関東支社水戸支店長

自由に選択可能な「分煙」を

沼田 分煙対策については多様な意見や対応がありますが、JTではどのような考え、取り組んでいますか。

太田 2018年7月に健康増進法の一部が改正され、施設の種類により喫煙ルールが明確に定められました。今年7月から学校・病院・行政機関等の第一種施設で施行され、2020年4月からはその他全ての事業所や飲食店等の第二種施設において、喫煙室の技

術的基準に合わせた対応が必須となります。それらの対応に向け、年間80件に上る県内の事業所・飲食店などの施設管理者からのご相談にお応えし、各施設の形態やニーズに合わせた分煙方法についてアドバイスやご提案を行っております。

五輪向けマナーと環境整備

沼田 来年8月には東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、マナー向上へ本県での取り組み状況はいかがでしょうか。

太田 たばこを吸われない方から喫煙に対してご理解いただくためには、吸われる方のマナー向上が不可欠です。県内では、環境美化と愛煙家の皆さまのマナー向上を目的に、これまで水戸駅など主要25駅41カ所に喫煙所を整備しております。他にも観光施設、道の駅、商店街などの喫煙所設置に協力しております。

また、海外では屋内は禁煙でも屋外は比較的自由に喫煙できる場所が多くあります。今秋行われたラグビーW杯では、外国

人観光客に配慮し、W杯組織委員会が開催会場の屋外において、たばこを吸われない方への配慮がなされた場所への喫煙所の設置を認め、各会場とも喫煙される方も快適な観戦環境を整備されました。

2020年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、大会組織委員会は加熱式たばこも含め、競技会場の敷地内は屋内外とも全面禁煙にする方針としています。JT東関東支社では、管内3カ所の開催会場（幕張メッセ、釣ヶ崎海岸、鹿島サッカースタジアム）には多くの外国人の方も訪れることから、マナー対策として、会場周辺のたばこを吸われない方の

術的基準に合わせた対応が必須となります。それらの対応に向け、年間80件に上る県内の事業所・飲食店などの施設管理者からのご相談にお応えし、各施設の形態やニーズに合わせた分煙方法についてアドバイスやご提案を行っております。

JTは、「たばこを吸われる方と吸われない方の双方にとって、さまざまな選択の自由を選べる環境であること」、それがより良い「分煙社会」であると考え、双方が共存できる社会の実現に向けて取り組んでいます。

共存社会を実現するためには、双方の考えや意見を尊重し、マナー啓発活動などのソフト面と、分煙環境整備などのハード面における取り組みなど、さまざまな活動を展開しています。今後も分煙に関するご相談があれば、当社へお問合せいただきたいと思います。

持続可能な地域社会に貢献

沼田 地域・社会貢献活動にも積極的に取り組んでいますね。

太田 JTグループは、責任ある地域コミュニティの一員として、自然・社会・人間の多様性に価値を認め、幅広いステークホルダーとともにさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。活動は多岐にわたります。NPO法人の助成事業では、地域コミュニティの再生・活性化につながる

事業への支援を行い、また県内支援団体との意見交換を行っています。その他、また全国9カ所、自然環境保全の一環として、「JTの森」という森林保全活動を進めています。

2020年以降は「JT NPO助成事業」の後継助成事業として「JT SDGs貢献プロジェクト」を発足させ、地域社会のさまざまな団体とのパートナーシップを基盤に、社会貢献



水戸黄門まつりで実施した「ひろえば街が好きになる運動」に参加した水戸商業高校ボランティアスタッフの皆さん

迷惑とならない場所へ喫煙場所の設置が必要であるとされています。さらに、市民参加型の清掃活動「ひろえば街が好きになる運動」を全国の催事会場でも実施しており、茨城県では、水戸黄門まつり会場

場と泉町二丁目商店街振興組合および県立水戸商業高等学校の皆さまのご協力により過去15回実施し、延べ1万2500人の方々に参加頂いております。

また、たばこ販売協同組合の皆さまと一緒に、駅周辺や街頭での美化活動を継続して実施しており、喫煙マナーを守っていただける

よう呼び掛けておりますが、JT東関東支社では来年度以降、さらにこの活動を拡大していくことを考えています。

沼田 未成年者の喫煙問題への取り組みについてはどうですか。

太田 JTでは、従来から未成年者には喫煙をさせない社会づくりに取り組んでいますが、未成年者の喫煙は法律で禁止されており、社会全体で取り組む必要があります。

本県においても、たばこ販売協同組合や自治体、警察、青少年育成団体など11団体が連携・協力し、街頭での啓発キャンペーンや未成年者喫煙防止対策協議会を実施しております。7月11日に実施したキャンペーンでは、県内8駅で418人が参加し、啓発物品の配布、お声掛けを行いました。

活動の重点課題と位置付ける3領域（「格差是正」「災害分野」「環境保全」）及び関連するSDGsへの貢献を通じて、包括かつ持続可能な地域社会の発展に向けて取り組んでいきます。

あわせて、対象団体を拡大し、助成額の上限を増額するとともに、募集の受付期間を通常とし実施してまいります。

活動の重点課題と位置付ける3領域（「格差是正」「災害分野」「環境保全」）及び関連するSDGsへの貢献を通じて、包括かつ持続可能な地域社会の発展に向けて取り組んでいきます。

あわせて、対象団体を拡大し、助成額の上限を増額するとともに、募集の受付期間を通常とし実施してまいります。

あわせて、対象団体を拡大し、助成額の上限を増額するとともに、募集の受付期間を通常とし実施してまいります。

あわせて、対象団体を拡大し、助成額の上限を増額するとともに、募集の受付期間を通常とし実施してまいります。

コラム 2

パーティション付きの屋外喫煙所を整備

つくば駅前商業施設「クレオスクエア」

TXつくば駅と直結した商業施設「クレオスクエア」の屋外喫煙所がリニューアルされました。整備した喫煙所は、通行人に配慮し、高さ約2.0メートルのポリカーボネート製パーティションをL字型に配置した約15平方メートル。中に特大スタンド灰皿2基が設置されています。商業施設を管理運営する(株)日本エスコ



パーティションでL字型に区切られたクレオスクエアの屋外喫煙所

とJTが協働して設置しています。商業施設「クレオスクエア」は年間300万人以上が来店しており、喫煙所はTXつくば駅利用者も含めた多くの喫煙者に利用されています。現在、つくば駅周辺は、つくば市が定める条例により、路上喫煙禁止地区となっています。また、改正健康増進法が施行される来年4月には、喫煙専用室等がある場合を除いて、事業所や飲食店等は原則屋内禁煙となることから、屋外喫煙所の利用需要が増加することが見込まれ、喫煙スペースの確保が急務となっています。JTでは、たばこを吸う人も吸わない人も互いに気持ちよく、安心して、共存できる分煙社会づくりに向け、集客が多い駅前や繁華街を中心に、環境美化やマナー啓発を含めた喫煙環境整備のお手伝いをしていきます。

コラム 1

保護犬と若者の巣立ちを支援

キドックス（土浦市）



カフェで保護犬と触れ合う利用客と話す上山代表

キドックスの主な事業は土浦市での保護犬の一時保護所と、つくば市での保護犬カフェの運営。一時保護所では若者たちが保護犬の世話やトレーニングを、カフェでは人との交流や犬の里親とのマッチングを図ります。現在、中学生から30代までの16人が、保護犬約10頭の世話を通じ自立を目指しています。若者たちは引きこもりや不登校の経験から自立に悩みを抱え、保護犬も人間不信などの課題があります。互いにナイーブだからこそ適切な距離感で接することができ、触れ合いの中で成功体験を積むことが社会復帰のステップアップになっているといいます。設立以来、保護犬約40頭、若者約20人が巣立っていきましました。最近では啓発活動にも盛んに取り組んでおり、命の大切さを説きながら広く理解を求めています。カフェの収益は保護犬たちの飼育費や医療費のほか、若者たちの賃金に還元され、自立支援に役立てられます。上山琴美代表は「カフェに遊びに来るだけで社会貢献につながるの、気軽に足を運んでみて。保護犬ゼロの実現は難しいものの、未然に防ぐための啓発に力を入れていきたい」と語ってくれました。